

資料名 上田正昭氏関係記事

◇資料の種類：新聞等

◇点数：64点（新聞記事36点、雑誌等18点、催事等10点）

◇配架方法：開架

◇資料解説

1 上田正昭氏関係記事とは

上田正昭氏は、亀岡市出身の歴史学者です。平成28年3月13日に88歳で逝去されました。地元である小幡神社（曾我部町）の宮司をされながら、広い視野で歴史学を深められ、古代史研究、アジア交流史、人権問題、生涯学習と多彩な分野を極められました。上田氏が逝去された後に、新聞等に死亡記事、雑誌等に追悼文が掲載され、追悼の催事が各地で開かれました。それらの記事を収集して整理したものを、上田正昭氏関係記事としました。

2 収集の方法

「新聞記事」は、資料館において定期購読する京都新聞を中心に収集していましたが、公開にあたって、市の秘書広報課の新聞スクラップ（京都・朝日・毎日・読売・産経・日経）から、平成28年6月までのものを収集しました。他紙の掲載もありますが、今回は未収集です。

「雑誌等」は、主に上田氏が関係した機関の発行物を中心としています。発行後に資料館に寄贈または入手したものの以外に、市の人権啓発課で収集、またデジタル配信されているものも一部含めました。

「催事等」は、展示・講演・偲ぶ会の種類があります。発行物があるものはできる限り収集し、特に発行物がないものは新聞記事等を参考に記載して、内容を伝えるように努めました。

全般にわたり、直後に蓄積されたもの以外は、全国的なものはインターネット情報により検索し、地元情報は関係者の聞き取りにより追加収集しました。

3 内容と利用方法

「新聞記事」は、逝去を知らせる記事が、各社とも翌日の一面および社会面の両方に掲載されており、影響の大きさを感じます。一週間後には、上田氏と懇意な人物の追悼文が各紙に掲載され、5月31日の偲ぶ会の記事で大方の区切りとしています。新聞記事は簡潔にまとめられているので、上田氏の人物や事績を知るのに有益です。

「雑誌等」は、各関係機関（歴史学・アジア交流史・人権問題・生涯学習等）が発行するので、その業界での上田氏の活動や人的交流をより詳しく知ることができます。

「催事等」は、追悼を目的にしたより積極的な行為であり、深い感謝の念が込められる行事であるとともに、上田氏の深めた分野での意思・事業の継承がうかがえます。

◇使用上の注意事項

- ・貸し出しはしていません。複写される方は、「文献複写申込書」に記入の上、受付へお持ちください。（白黒1枚10円／カラー1枚50円）。

公開うらばなし

故上田先生の業績はあまりにも多岐にわたるため、生前に把握することは全く途方もないことだと思っていました。ところが、ご逝去されたのちの報道や追悼文は、先生の業績やお人柄の一端を多くの人々が理解することに役立つものでした。けれども、まだ一年ではありますが亡くなられた人物の記録を集めることは難しいと感じました。ましてや、時を経ていくともっと困難になることでしょう。今、この時期に、ほんの一部でも先生に関する記録を残し整理できたことで、最初の責任を果たしほっとした気持ちです。

ただし、もれ落ちている項目も少しとはいえないと思います。今後も収集を続けるとともに、先生の業績についても、市としての記録の残し方を考えていきたいと思います。

生前にお世話になったことを深く感謝して、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

アーキビストのつぶやき

今回より、名称を改めた個所をお知らせします。「亀岡市史収集資料 一般公開」を、実態にあわせて「亀岡市文化資料館 資料公開」とします。市史編さん終了後12年を経て、それ以降の収集も増えてきたからです。ただし、市史時代の資料の公開は未だ一部であり、今後も順次、取り組む予定です。

「公開の窓辺で…」を「アーキビストのつぶやき」に改め、この事業の意味を明確にします。資料公開は、資料館のいわばアーカイブ部門（資料の保存活用）の仕事です。展示やイベントなどの表の事業とともに、地味ではありますが、資料館を根底からささえる重要な機能です。資料の保存活用を仕事とするアーキビストたち…その小さなつぶやきを聞いてください。（上甲典子）

事務連絡

前回1月7日（土）第35回資料公開「久遠の知・大堰の流れ」の説明会参加者は4名でした。来年度も年3回の資料公開を予定しています。

亀岡市文化資料館 資料公開担当

〒621-0815 京都府亀岡市古世町中内坪1番地

TEL 0771-25-5067・22-0599 FAX 0771-25-6128

E-mail bunka-siryoukan@city.kameoka.kyoto.jp